

JUDO2の簡単使い方ガイド

トップ画面と左サイドメニューの使い方を簡単に説明します。

①座標系を選ぶ

座標系を「galactic(銀河座標系)」・「J2000(赤道座標系)」から選択します。

②天体を検索する

天体名または座標（例：[M87], [0,0]）を入力すると、その天体または指定位置が画像の中心に表示されます。

③表示データを選ぶ

波長が短い方から順にデータが並んでいます。2つのデータを選択し、画面に重ねて表示します。

(A) Name

観測機器の名前です。

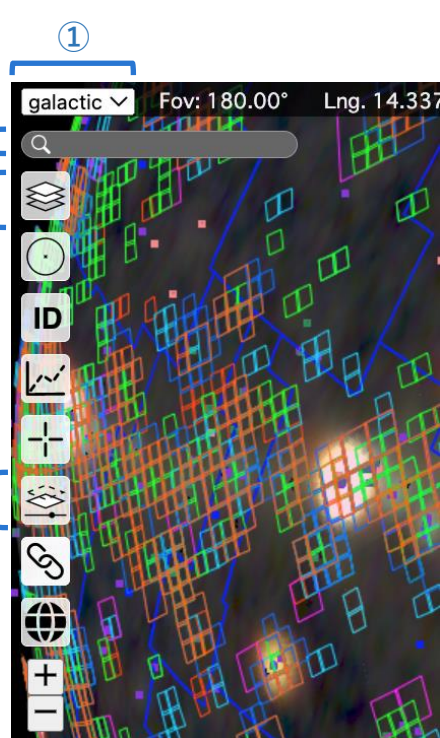
(B) Coverage

観測データが、全天をカバーする範囲を0~1の数値で示しています。1の場合は全天観測、1以下は部分的な観測です。

(C) Btm Top

表示したい観測データを2つ選択します。Btm が背面イメージ、Top は前面イメージです。両方とも同じデータにすると、1つの観測データのみのイメージになります。

表示名	波長	特徴
γ-ray	ガンマ線	宇宙における最も高エネルギーの現象で発生します
X-ray	X線	高温のガスや高エネルギー活動が起こっている領域から放射されます
UV	紫外線	生まれたばかりの大質量の星など、極めて高温の天体から放射されます
Opt.	可視光	目に見える光です。宇宙にある星の多くは可視光を放っています。
IR	赤外線	低温の星や、星間物質・塵に隠されて可視光で見えない天体を観測できます
Radio	電波	温度の低い現象や、星形成領域、銀河などを観測できます
Cons.	星座	星座のイラストが表示されます



Images to Display	Name	Coverage	Btm	Top
	Fermi	1	●	●
γ-ray	INTEGRAL	0.38	●	●
	Swift BAT	1	●	●
	ASCA SIS	0.20	●	●
	ASCA GIS	0.26	●	●
	ASCA GIS64	0.014	●	●
	Chandra	0.022	●	●
	Hitomi SXS	8E-04	●	●
	Hitomi SXI	8E-04	●	●
	Hitomi HXI	5E-05	●	●
	MAXI GSC (bright)	1	●	●
	MAXI GSC (dim)	1	○	●
X-ray	- DAILY	-	●	●
	- WEEKLY	-	●	●
	- MONTHLY	1	●	●
	- YEARLY	1	●	●
	MAXI SSC	1	●	●
	MAXI SSC (ContBin)	1	●	●
	RASS	1	●	●
	Suzaku XIS	0.11	●	○
	Swift XRT	0.19	●	●
	XMM EPIC	0.09	●	●
UV	GALEX	0.80	●	●
	DSS2	1	●	●
	SDSS9	0.36	●	●
Opt.	Melinger	1	●	●
	VISTA VVV	0.01	●	●
	PanSTARRS	0.78	●	●
	GAI2	1	●	●
	WHAM	1	●	●
IR	AKARI IRC	0.008	●	●
	AKARI FIS (bright)	1	●	●
	AKARI FIS (dim)	1	●	●
	BICE	0.03	●	●
	IRTS	0.13	●	●
	2MASS	1	●	●
	allWISE	1	●	●
Radio	Herschel Lists	0.45	●	●
	GLIMPSE	0.03	●	●
	COHRS	0.001	●	●
	CO	1	●	●
	NVSS	0.82	●	●
	Lines	1	●	●
Cons.	Drawing (B/W)	1	●	●
	Drawing (color)	1	●	●
	Painting (B/W)	1	●	●
	Painting (color)	1	●	●
	KAGAYA	1	●	●

④透明度と観測視野表示を変える(小見出しor リスト)

・透明度を変える

「Top Image」のつまみをスライドして、Top 前面イメージの透明度を調整できます。一番左にするとBtm 背面イメージのみに表示されます。右に動かしていくとTop 前面イメージが見えてきます。

・観測視野表示を変える

画面上のカラフルな□や○の枠は、さまざまな観測機器が観測した場所（観測視野）を示しています。「Graphic」のつまみを一番左にすると、この表示を消すことができます。観測視野を消すと、背景のイメージが見やすくなります。



より詳細な使い方は[こちら](#)を参照してください。